

病防第97号  
平成29年10月31日

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

病害虫発生予察特殊報について（送付）  
このことについて、発生予察特殊報第2号を発表しましたので送付します。

## 特 殊 報

平成29年度発生予察特殊報第2号

平成29年10月31日  
熊本県病害虫防除所長

- 1 病害虫名 キウイフルーツかいよう病 (Psa3系統)
- 2 病原菌 *Pseudomonas syringae* pv. *actinidiae* biovar 3
- 3 発生作物 キウイフルーツ
- 4 発生確認の経過  
平成29年4月、県北のキウイフルーツ栽培ほ場(品種:ヘイワード)において、キウイフルーツかいよう病の特徴である赤色の樹液の漏液が認められた。  
4月中旬に現場ほ場から検体を採取し、PCR法により診断を実施した結果、本県では未確認のキウイフルーツかいよう病のPsa3系統であることが判明した。
- 5 国内の発生状況  
本病は、平成26年5月に国内で初めて愛媛県で確認されて以降、これまでに15都県で報告されている。
- 6 病徴
  - (1) 本病は枝幹、新梢、葉、花蕾に発病する。春から梅雨期頃には、新梢、葉、花蕾で、冬から翌春には、枝幹で発病が見られる。
  - (2) 枝幹では、2月頃から症状が見られ、葉柄痕、傷口等から細菌を含む白濁もしくは、赤色の樹液が漏出し、のちに乾いて褐変する。
  - (3) 伸長中の新梢が感染すると、はじめ水浸状の病斑を生じ、それが次第に黒色となり、亀裂を生じて萎凋枯死する。
  - (4) 葉では不整形の褐色斑点が形成され、斑点の周囲に淡い黄色帯（ハロー）が認められるが、既発生県の報告によるとPsa3系統は、時期や品種によっては黄色帯（ハロー）が明瞭でない場合もある。
  - (5) 花蕾ではガクが褐変し、花の腐敗落花が生じるが、花腐細菌病と症状が類似していることから、外観での判別は難しい。

## 7 病原菌の性質及び伝染方法

- (1) 病原菌は細菌の一種で、感染樹の葉や枝などから漏出した細菌液が、風雨による飛散や接触により、葉や枝の傷口、気孔などに付着することにより感染する。また、接木や作業器具等によって伝染する。
- (2) 病原菌の生育に好適な温度は10～20℃程度であり、32℃以上の高温で多くの菌が死滅する。

## 8 防除対策

- (1) 春先までは銅剤の散布を主体とした感染予防を行う。4月以降、葉、新梢、花蕾に症状が見られる場合、抗生物質等の散布により感染の拡大を防ぐ。また、冬季には抗生物質の樹幹注入により菌密度の上昇を抑制する（表1）。
- (2) 感染した枝や葉は伝染源となるため、薬剤防除や枝の切り戻しを行う。主幹部から菌液が漏出するなど発病程度が重い場合は、台木部分まで伐採する。切除及び伐採を行った枝や葉および幹は二次伝染源となるので、発生ほ場内で土中埋設など適切な処分を行う。
- (3) 菌は雨滴によって飛散、感染するので剪定等の管理作業は晴天時に実施する。
- (4) 剪定後は、必ず切り口に癒合促進剤（トップジンMペースト）を塗布する。
- (5) 剪定等の作業に用いた器具は必ず樹ごとに、「0.02%次亜塩素酸ナトリウム水溶液」または「70%エタノール液」を用いて消毒し、作業器具等を介して病原菌を未発生圃場へ持ち込まないように注意する。発生圃場での作業は最後に行うように計画し、作業終了後は器具や長靴等の洗浄・消毒を徹底する。
- (6) 菌液は強い風雨により飛散し、他の樹に感染するので、その強風を抑えるため、風当たりの強い圃場では防風ネット等により防風対策を行う。
- (7) 花粉によって伝染する恐れがあるので、感染樹の花粉は絶対に人工授粉に使用しない。
- (8) 苗木、穂木、花粉等は伝染源の可能性があるので、健全なものを使用する。



写真1 枝からの樹液の漏出



写真2 褐色斑点症状

(写真は「Psa3系統」の病徴。写真1、2は福岡県農林業総合試験場提供。)

表1 キウイフルーツかいよう病に登録がある農薬

平成29年10月25日現在

使用方法	一般名	商品名	希釈倍	使用時期	本剤の使用回数
散布	銅水和剤	ICボルドー66D	25～50倍	収穫後～発芽前	—
		コサイド3000	2000倍	収穫後～果実肥大期	
		コサイドボルドー	500倍	収穫後～発芽前	
	ストレプトマイシン水和剤	アグレプト水和剤	1000倍	収穫90日前まで	4回以内
		マイシン20水和剤	1000倍	収穫90日前まで	
	銅・ストレプトマイシン水和剤	銅ストマイ水和剤	600～800倍	休眠期～蕾出現前	
	カスガマイシン液剤	カスミン液剤	400倍	収穫90日前後	
	カスガマイシン・銅水和剤	カスミンボルドー	1000倍	発芽後叢生期 (新梢長約10cm) まで	
			500倍	休眠期	
		カップーシン水和剤	1000倍	発芽後叢生期 (新梢長約10cm) まで	
500倍			休眠期		
オキシテトラサイクリン ・ストレプトマイシン水和剤	アグリマイシン-100	1000倍	落花期まで	3回以内	
樹幹注入	ストレプトマイシン液剤	アグレプト液剤	1000倍	収穫後～落葉前まで	
	カスガマイシン液剤	カスミン液剤	200倍	収穫後～落葉前まで	
塗布	チオファネートメチル剤	トップジンMペースト	原液	剪定整枝時、病患部 削り取り直後、及び病 枝切除後	3回以内

※ストレプトマイシンを含む農薬の総使用回数は4回以内（うち樹幹注入は1回以内）

※カスガマイシンを含む農薬の総使用回数は4回以内（うち樹幹注入は1回以内）

注）チオファネートメチル剤の使用目的は、切り口および傷口の癒合促進。

注）農薬の使用に当たっては、最新の登録内容を確認下さい。

問い合わせ先

熊本県病害虫防除所

〔 農業研究センター 生産環境研究所 〕

〔 病害虫研究室 予察指導係 〕

担当：齊藤、加賀山 TEL：096-248-6490